

【第二報 (2021年9月1日)】

※ 第一報はこの PDF ファイルの最終ページをご覧ください

日本教育社会学会 第73回大会

若手研究者交流会

(オンライン開催)

大会前日の9月10日(金)の午後7時から開催を予定している若手研究者交流会について、申し込みフォームの URL をお知らせするとともに、当日のおおまかな進行表、ならびにラウンドテーブルの詳細(各話題提供者のプロフィールや報告概要)をご案内いたします。

1. 申し込みフォーム

下記のフォームより、お申し込みください。

<日本教育社会学会 若手研究者交流会 申し込みフォーム>

<https://forms.gle/HcwrmvH4GhyRhNcm9>



申し込みの期限はありません。交流会終了時まで、申し込み可能です。

Zoom 会場の情報は、下記の方法にてお知らせいたします。

- ・9月9日までに申し込んだ場合
9月9日に事務局から送付するメールに、Zoom 会場の情報が記載されています。
- ・9月10日(交流会当日)に申し込んだ場合
申し込み直後の画面に、Zoom 会場の情報が記載されています。

2. 当日の参加方法と進行表

ラウンドテーブル I と II で、それぞれ Zoom 会場を設けます。各会場にて、話題提供者からの報告と、ブレイクアウトセッションをおこないます。各会場の進行は基本的に同じで、下記のとおりです。

19:00-19:10	教育部挨拶, 趣旨説明
19:10-19:40	話題提供者による報告
19:40-20:10	質疑応答
20:10-20:20	休憩 (ブレイクアウトセッションへの移行)
20:20-21:00	話題提供を受けて、ブレイクアウトセッション 【ここで公式の交流会は終了】
21:00-21:30	会場を閉じずに自由に交流

3. ラウンドテーブルの詳細

(1) ラウンドテーブル I ——大学院生のサバイバル・ストラテジー

大学院生の関心や課題についての話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。主なトピックは、修論・博論執筆、論文投稿などです。

<話題提供者>

梅田 崇広 (愛媛大学)

数実 浩佑 (宝塚大学)

<司会>

上地 香杜 (静岡大学)

■ ラウンドテーブル I : 話題提供者のプロフィール・報告概要・主要研究業績

▼ 梅田 崇広 (うめだ たかひろ)

① プロフィール

愛媛大学教育学部教育臨床講座講師。博士 (教育学)。児童生徒間における人間関係上のトラブルの「問題」化過程に関する学級内の相互作用に着目した研究を行っている。

② 報告概要

話題提供者がこれまで行ってきた学校におけるフィールドワーク経験 (おもしろさや苦労話) とそれに基づいた修士論文・博士論文執筆の過程を報告する。また、その中で、大学院生時代に意識していた点や学内外の院生・研究者との交流経験を紹介する。

③ 主要研究業績

- ・梅田崇広, 2018, 「〈いじめ〉をめぐる語りの構築過程—流動的な語りから語りの一元化へ—」『教育社会学研究』第 103 集, pp. 69-88.
- ・梅田崇広, 2020, 「教師—生徒による解釈のせめぎあい—ある生徒間トラブルをめぐる生徒指導実践に着目して—」『教育学研究ジャーナル』第 25 号, pp. 23-32.

▼ 数実 浩佑 (かずみ こうすけ)

① プロフィール

宝塚大学東京メディア芸術学部講師。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士 (人間科学)。日本学術振興会特別研究員 PD を経て、現職。なぜ学力格差が生まれるのかをテーマに、主に量的分析の手法を用いながら研究を行っている。

② 報告概要

修論・博論の大まかなスケジュール、投稿論文や学振申請書の話を入れながら、院生時代にやっておいてよかったこと／やっておけばよかったことについて報告する。院生同士のつながりを築くことの重要性や自身の失敗談などをふまえながら、研究の着想をどのように得てきたかについても話したい。

③ 主要研究業績

- ・数実浩佑, 2017, 「学力格差の維持・拡大メカニズムに関する実証的研究: 学力と学習態度の双方

向因果に着目して」『教育社会学研究』101, pp. 49-68.

- ・数実浩佑, 2019, 「学業成績の低下が学習時間の変化に与える影響とその階層差: 変化の方向と非変化時の状態を区別したパネルデータ分析を用いて」『理論と方法』34(2), pp. 220-234.

(2) ラウンドテーブルⅡ——若手大学教員のキャリア・マネジメント

大学教員の初期キャリア段階(任期付・ポスドク含む)を想定した話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。主なトピックは、キャリアの変遷・展望です。

<話題提供者>

吉田 美穂 (弘前大学)

高橋 靖幸 (新潟県立大学)

<司会>

金南 咲季 (椋山女学園大学)

■ ラウンドテーブルⅡ: 話題提供者のプロフィール・報告概要・主要研究業績

▼ 吉田 美穂 (よしだ みほ)

① プロフィール

2017年より弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)准教授。大学卒業後、神奈川県立高校教員として30年近く勤務。その傍ら、30代後半の横浜国立大学大学院への長期派遣研修を契機に、教育社会学の研究に従事。専任の高校教員として働きつつ中央大学大学院博士後期課程に在籍、単位取得退学。修士(教育学)。教員文化に注目しながら、社会経済的な背景により教育から排除されがちな子どもの教育支援について研究している。

② 報告概要

教員及びNPOスタッフとしての実践とその中で生じた疑問に答えるための研究を両立してきた自身のキャリアが、地方国立大学教職大学院における教員養成、現職教員研修及び社会貢献活動等にどのように活かされているか、また高校教員やNPOスタッフ時代からのネットワークや経験が現在の研究とどのようにリンクしているかについて、話題提供させていただきます。

③ 主要研究業績

- ・吉田美穂, 2005, 「教員文化の内部構造の分析: 「生徒による授業評価」に対する教員の意識調査から」, 『教育社会学研究』第77集, pp. 47-67.
- ・吉田美穂, 2007, 「「お世話モード」と「ぶつからない」統制システム: アカウンタビリティを背景とした「教育困難校」の生徒指導」, 『教育社会学研究』第81集, pp. 89-109.

▼ 高橋 靖幸 (たかはし やすゆき)

① プロフィール

新潟県立大学人間生活学部子ども学科講師。立教大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程後期課程単位取得満期退学。修士(教育学)。明治期以降の児童虐待問題の歴史を社会構築主義の視座から分析し、日本の子どもの近代の有り様を問う研究を行っている。

② 報告概要

大学院時代のこと、非常勤講師のこと、留学のこと、研究以外の部分で就職につながった経験等について、私自身のこれまでのキャリアの変遷をもとにお話したいと思います。その上で、現在の仕事と研究、研究向上の取り組み、今後のキャリアの見通しについて話をし、研究者のキャリアデザインについて様々な角度から考えるための話題提供を行います。参加者の方々からも、研究者のキャリアデザインについての考えを色々とお伺いしたいと考えています。

③ 主要研究業績

- ・高橋靖幸，2021，「貰い子たちのゆくえ：昭和戦前期の児童虐待問題にみる子どもの保護の接合と分散」元森絵里子・高橋靖幸・土屋敦・貞包英之『多様な子どもの近代：稼ぐ・貰われる・消費する年少者たち』青弓社（近刊）。
- ・高橋靖幸，2020，「子ども研究における『構築』とは何か：児童虐待問題の歴史」元森絵里子・南出和余・高橋靖幸編『子どもへの視角：新しい子ども社会研究』新曜社，pp.67-84.
- ・高橋靖幸，2018，「becoming としての子ども/being としての子ども」北澤毅・間山広朗編『教師のメソドロジー：社会学的に教育実践を創るために』北樹出版，pp.42-56.
- ・高橋靖幸，2018，「昭和戦前期の児童虐待問題と『子ども期の享受』：昭和8年児童虐待防止法の制定に関する構築主義的研究」『教育社会学研究』第102集，pp.175-193.

【第一報 (大会プログラム掲載済)】

若手研究者交流会

若手研究者交流会を、大会前日の9月10日(金)に、オンラインにて開催します。

若手研究者交流会の目的は、大学院生をはじめとする若手の研究者が、研究室・大学をこえた交流をととして、研究上の関心や課題と新たな気づきを共有し、また研究者相互のネットワークを拡充することです。本交流会を担当する教育部では、できるだけ若手の目線で企画を立てるべく、若い世代の部員を交えて議論を重ねてきました。

そこで今年度は、下記の2つのラウンドテーブルを用意しました。いずれか1つのテーブルを選んでご参加ください。参加は無料で、非会員も自由に参加できます。

参加には、事前の申し込みが必要です。学会ウェブサイトに詳報を掲載するので、案内に従って申し込みフォームに必要事項を記入して送信してください。ご登録いただいたメールアドレス宛に、当日のZoom会場の情報等を送付します。その他、本交流会に関する**最新の情報は学会ウェブサイト上に**、必要に応じて発表します。適宜ご参照いただきたくお願い申し上げます。

【日時】

2021年9月10日(金) 19:00-21:00 (懇親会は開催しません)

【場所】

Zoom

【参加対象】

大学院生や初期キャリア段階の大学教員など、**教育社会学に関心をもつ若手研究者。非学会員や学部生も、参加可能です。**参加費は無料です。参加には、**事前の申し込みが必要**で、8月上旬に申し込みを開始します。詳細は適宜、学会ウェブサイトをご参照ください。

【ラウンドテーブル】

ラウンドテーブルⅠ——大学院生のサバイバル・ストラテジー

大学院生の関心や課題についての話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。主なトピックは、修論・博論執筆、論文投稿などです。

<話題提供者>

梅田 崇広 (愛媛大学)

数実 浩佑 (宝塚大学)

<司会>

上地 香杜 (静岡大学)

ラウンドテーブルⅡ——若手大学教員のキャリア・マネジメント

大学教員の初期キャリア段階(任期付・ポスドク含む)を想定した話題提供と質疑応答の後、小グループでの交流を予定します。主なトピックは、キャリアの変遷・展望です。

<話題提供者>

吉田 美穂 (弘前大学)

高橋 靖幸 (新潟県立大学)

<司会>

金南 咲季 (椋山女学園大学)

【準備物】

研究者間の交流を目的としているため、カメラの使用を推奨します。ただし、機器が準備できないなど特別な事情がある場合には、カメラをOFFにして参加することも可能です。

※企画担当

教育部 内田 良 (名古屋大学)、 間山 広朗 (神奈川大学)、 内田 康弘 (愛知学院大学)